

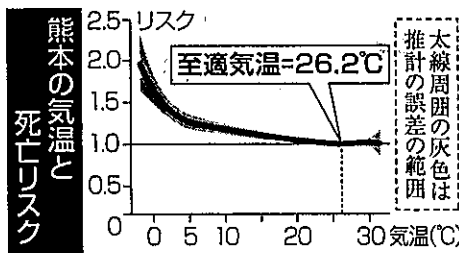
人間の死 気温が影響

長崎大やロンドン大など世界12カ国の大学・研究機関が、気候変動と人間の健康に関して13カ国・地域の約7400万人の死亡データを解析した結果、全体の7.7%に当たる約572万人の死亡に気温が影響していることが分かった。同様の研究でこれほど大規模な解析は初めてで、貴重なデータと言えそうだ。

対象地域は日本、中国、韓国、タイ、台湾、米国、カナダ、英国、イタリア、スペイン、スウェーデン、オーストラリア、ブラジルの384都市(日本は単位の死にデータベースを活用、最長は1985〜2012年分を分析した。気温の死亡への影響は、心臓発作や低体温症、熱中

長崎大など12カ国の大学・研究機関

熊本 26.2度でリスク最小



症をはじめ血管や呼吸器の疾患が、気温が引き金となって悪化した例など。気温の影響度合いは国によって違い、日本は10.1%と中国(11%)、イタリア(10.9%)に次いで大きかった。死亡数は極端に暑かったり寒かったりするときはずかで、それ以外が中心。最も死亡が少ない気温(最適気温)は、温帯では、そ

の地域の最高気温の80〜90%ほどで年平均気温よりは大幅に高い。気温の影響を受けた死亡者約572万人のうち540万人は、この最適気温を下回る気温帯だった。

研究結果は、都市(県)別に最適気温と、それ以外での死亡リスクも明示。熊本で最も死亡が少ないのは7月上旬や9月上旬に当たる1日平均気温が26.2度。これ以下で死亡リスクは徐々に高まり、3度を下回ると急上昇していた。日本では、青森や岩手など北日本で、極端に暑いと死亡リス

気温と死亡リスク
研究では各地の特性を比較するため、それぞれ別の気温の1日当たりの死亡数を分析。最も死亡が少ない気温での

クが高まる地域もあった。研究に参加した長崎大熱帯医学研究所の橋爪真弘教授は「研究者の多くは暑さによる健康への影響を注視してきたが、最適気温より低い気温の影響が圧倒的に大きく、気温の影響を考える上で基礎的なデータになる」としている。

熊本大病院集中治療部長の木下順弘教授は「気温が高いと免疫力が低下しにくいのかも。研究成果をすぐに臨床に生かすのは困難と思うが、経験的に集中治療室は室温26度前後に設定している」と話している。

研究成果は英国の査読制医学雑誌「ランセット」で公開された。(編集委員・本多孝)

1日当たり死亡数を「1」として、例えば別の気温での1日当たり死亡数が2倍なら、リスクは「2」になると表現している。